痛みのない麻酔・きれいな傷にする縫合

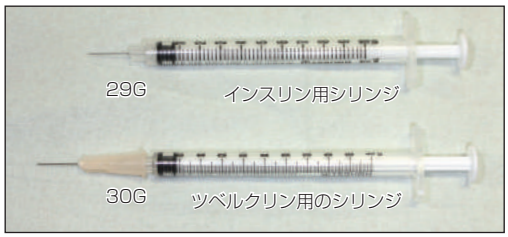
● 麻酔のポイント

外来小手術では、ほとんどの場合、出血を抑え、麻酔の持続時間を長くするため、麻酔剤に血管収縮剤（エピネフリン）を入りを用います。しかし、血管内に流入すると、急激な血圧上昇や頻脈を招くため注意が必要です。

痛くない麻酔注射のポイント

1．部位によるが、できるだけ細いシリンジを使うこと。
（例：ツベルクリン用の注射器）
少しずつ注入することができるため。

2．できるだけ細く短い針を用いること。
（27G、30Gなど。現在では33Gという細い針もある。）

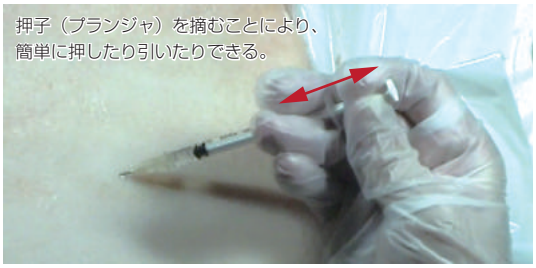


3．できるだけ、垂直に刺入する。
痛点に当たる面積を小さくするため。

4．注射針の刺入速度をゆっくりとする、太い神経に針を当てないようにする。

5．注射液の注入速度が速いと痛みが強いので、できる限りゆっくりと注入すること。そうすると、痛みも少なくなり、また全体的に麻酔の量も少なくてすむ。

このゆっくりと注入する際、持ち方一つで容易にできる方法があります。
押子（プランジャ）を親指で押すのではなく、シリンジを中指と薬指で固定し、押子（プランジャ）を人差し指と親指で摘んで押し込みます。（写真参照）
そうすることにより、ゆっくりと注入することができます。





注射針の使い方のポイント

注射針を予め曲げて使うと非常に便利である。針の根本で30 ～ 45 度くらい曲げておくと、皮膚と平行に同じ深さで麻酔範囲を広げることが出来ます。

● 縫合のポイント

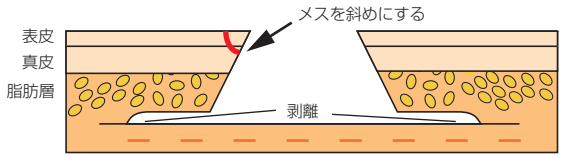
真皮縫合とは、創縁を寄せるために真皮層レベルで縫合する方法です。この真皮縫合によって、表皮創縁が密着するほど寄せられることが理想です。

使用する糸と針について

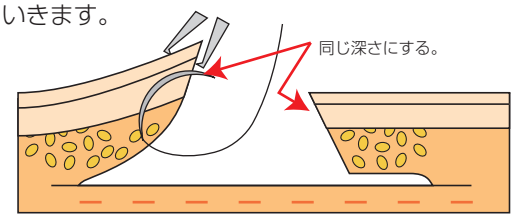
埋没縫合に使う糸は、4-0、5-0、6-0 の角針付き糸を用いる。素材はナイロンもしくは、ポリプロピレンのモノフィラメント縫合糸または、モノフィラメント吸収糸（例：PDSII®、マクソン®）

表皮縫合に使う糸は、顔の場合、7-0。体幹肢の場合、5-0、6-0 の針付き糸を用いる。基本的に角針を使うが、顔では丸針を用いることもあります。

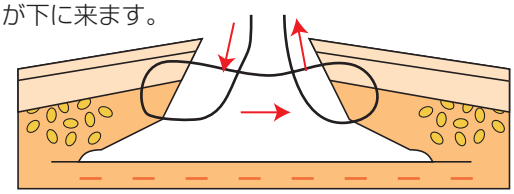
ポイントは、創縁部の割面を鋭角にして皮下をトリミングすることと、糸のかけ方にあります。



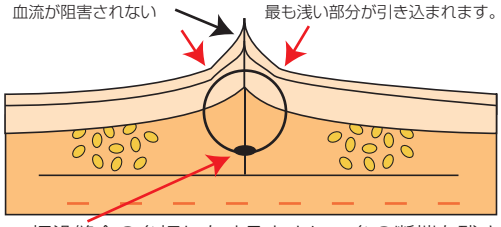
真皮の部分を針が通るとき、突き抜けないように注意すること。また、反対側に針を通すとき同じ深さのところから刺入していきます。



糸を締めると、緊張して真円になっていきます。最も浅い部分が引き寄せされて創縁部分が盛り上がります。そして、結び目が下に来ます。



盛り上がることにより、皮膚のマージンの血流が阻害されずに密着します。結果、１次治癒し、縫合不全が起こりにくい



Point：埋没縫合の糸切りをするときに、糸の断端を残さず結紮部分だけになるようにする。糸の断端が刺激になって、縫合糸膿瘍を起こしやすくなります。

最後の皮膚縫合時には、きつく締めないこと。血流が阻害されるためである。軽く締める場合、皮膚を引っ張っても縫合部が開かない程度に締めることがポイントである。

